



# 日本イーストウエストセンター同友会 The Japan EWC Association

ニューズレター 第6号

## 1990年度総会開催さる

去る12月12日(木)午後6時30分から東京、学士会館において1990年度日本イーストウエストセンター同友会総会が開催され、出席者24名、委任状多数をもって成立しました。顧問の山下勇氏、高沢義行氏にもご出席を頂き、最初に、太田会長から3月の原田泰氏セミナー、10月の柿澤弘治氏セミナーなど1990年度の事業報告が行われました。引き続き、馬場副会長(国際EWCA幹事)から国際EWCAの活動の報告、神保尚武幹事から名簿の発行について、中村正枝氏からニューズレターの発行について、それぞれ報告されました。また事務局の浜野から会計報告(詳細は別記)が行われ、収支が承認されました。

総会終了後は、山下顧問の発声による乾杯となり、引き続きアメリカ大使館ウィリアム・ブリアー筆頭公使による「日米関係の現状と今後の展望」と題する講演が行われました。ブリアー氏は長い滞日経験を踏まえ、日米関係の最近の動きをコメントされつつ、今後イーストウエストセンターのような交換プログラムがますます重要になるとの見解を述べられました。(講演の全文をP.3に掲載させて頂きました。)講演終了後も、なごやかな雰囲気での歓談はつきませんでした。会場の都合もあり9時過ぎ散会いたしました。(浜野 潔)



総会後の記念撮影

日本イーストウエストセンター同友会会計報告—1990年度  
(1989年12月1日～1990年11月30日の分)

収入の部	繰り越し	¥161,146	
	年会費	¥848,000	
	本部会員分	¥5,000×142名=¥710,000	
	支部会員分	¥3,000×46名=¥138,000	
	関西支部から返金	¥8,000	
	89年度総会会費	¥108,000	¥6,000×18名=¥108,000
	柿沢氏セミナー会費	¥100,000	¥5,000×20名=¥100,000
	原田氏セミナー会費	¥5,000	¥1,000×5名=¥5,000
	広告収入	¥200,000	
	三井物産	¥100,000	
	三菱商事	¥100,000	
合計		¥1,430,146	
支出の部	89年度総会費用	¥175,854	
	会場費	¥144,000	
	講師謝礼	¥30,000	
	資料代	¥1,854	
	ニューズレター第5号発行費用	¥237,568	
	印刷代	¥155,736	
	発送費	¥81,832	
	会費振込用紙印刷費用	¥8,309	
	原田氏セミナー費用	¥36,180	
	会場費	¥6,180	
	講師謝礼	¥30,000	
	柿沢氏セミナー費用	¥193,134	
	通知印刷・発送費	¥96,809	
	会場費・食事代	¥66,325	
	講師謝礼	¥30,000	
	90年度総会通知費用	¥115,978	
	事務通信費(切手・コピー代など)	¥15,317	
合計		¥782,340	
次年度への繰越金		¥647,806	

1990年12月12日

会計 浜野 潔

## 東と西が出会うところ

1990年12月12日

駐日米国筆頭公使

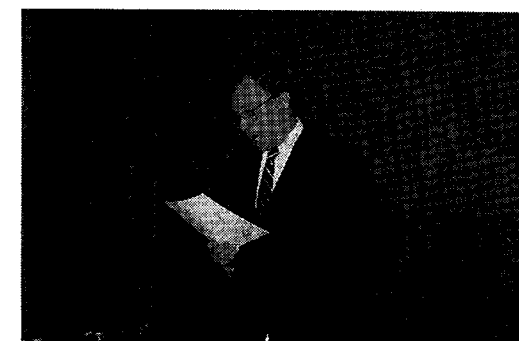
ウィリウム T. ブリア

### 日米パートナーシップの現状

本日はお招きいただき、大変嬉しく、また光栄に存じます。日米間の理解を促進するうえで、イースト・ウエスト・センターの仕事と、皆様が同窓生の役割は、かつてないほど重要になっています。

今や、日米間には、複雑で、密接で、幅広い関係があり、その多くは貿易と経済に関わっています。両国間に、時おり、強い意見の対立があっても、それは当然のことであり、健全なことでさえあるのです。両国は年とともに、ガットや、構造協議その他の二国間協議を通じて、そういった問題に対処するための、かなり良いメカニズムをつくりあげてきました。

その甲斐あって、個別の問題がひとつひとつ解決されてきました。必ずしも、期待したほど早くもなければ、幅広い解決でもなかったかもしれませんが、しかし、両国は年々、貿易障壁を減らし、アメリカの対日輸出を増やし、国際問題での日米パートナーシップを拡大してきました。両国がそれぞれ平等の立場に立つ健全な競争相手として、また、国際平和と経済福祉を推進していくうえでの対等なパートナーとして、目標に到達するには、まだ遠い道のりがあります。しかし、双方とも、正しい方向へ向かっており、そのおかげで、それぞれの経済展望も改善しています。



総会で特別講演の Breer 公使

### 世論——懸念すべき動向

窓から東京のまちを眺めると、その発展ぶりに、いえ、東京だけでなく、過去40年間の日本全体の発展ぶりに、皆さん同様、私も誇りを感じます。両国は、戦後、日本を再建するために、非常に密接に協力しました。そうすることで、私の世代と、そして、皆さんの多くが属しておられる世代は、お互いに、尊敬の念と理解と信頼感をもち合うようになり、それが現在にいたるまで、大いに役だってきました。

現在、双方の社会において、新しい世代が台頭しつつあります。この新しい世代は、両国が力を合わせて日本の再建にあたり、アジアの平和と安全保障を維持し、経済協力をしてきた時代の思い出を、共有していない世代であります。日本の新しい世代は、メディアが両国間のあらゆる意見の相違を「摩擦」と呼んだり、経済関係を説明するさい、「攻撃」とか「反撃」とかい

う軍事用語を頻繁に使う、というような環境のなかで育っています。同じように、アメリカのメディアも、財政赤字の改善に役立ち、アメリカ経済の継続的な成長を可能にしてきた、日本の投資を、「日本の侵略」と呼んでいます。

その結果、日米パートナーシップの現状への信頼感が、両国民のあいだで、著しく低下しつつあります。これは、最近、両国で行われたいくつかの世論調査に表れています。私はこのことを憂慮しておりますし、皆さんも、ご同様だろうと思います。このような相互理解と相互信頼の低下に対する、長期的な対応策として最も有効なのは、皆さんが参加されたような交流プログラムやプロジェクトだと思います。日米間の理解を促進するだけでなく、すべての環太平洋諸国のあいだに、お互いに対する尊敬の念と信頼感を育むうえで、イースト・ウェスト・センターの役割は、今やかつてないほど重要になっています。

#### イースト・ウェスト・センターと日米太平洋パートナーシップ

いま必要とされているのは、いかに、両国の命運がからみ合い、両国の国際的利害が重なり合っているか、について、両国民に説明する努力を一層増やすことです。環太平洋諸国に対する日米それぞれの政策に、この利害の重なりが最もはっきりと示されています。このような利害の共有があるゆえに、両国の政策立案者や、この分野に関わっている専門家や市民は、ユニークな地理的条件と活動方針をもっているイースト・ウェスト・センターに注目するようになったのです。

環太平洋諸国間の協調を拡大し、コンセンサスを築くことに、アメリカ政府は長いあいだ、関心をもってきました。しかし、両方の側に関心があることは確かなのですが、実際には、環太平洋諸国間の知的交流、教育交流、文化交流

などに積極的に取り組んでいる団体は、ほとんどありません。皆さんよくご存じのように、この地域は、文化的にも人種的にも、政治機構の面でも、多種多様です。この地域内でのコミュニケーションや学術交流を促進するうえで効果のあるプログラムの開発には、繊細で高度なアプローチが必要ですし、また、かなりの資源と有能なスタッフも必要とされます。

イースト・ウェスト・センターが実施している科学と文化をミックスしたプログラムは、明らかに、すべての関係諸国に役だっています。私もアメリカ大使館では、アジア・太平洋諸国やアメリカのジャーナリストに、交流の機会を与えるプログラムを実施しており、非常に大きな効果をあげております。そのインターナショナル・ビジターズ・プログラムに参加する日本人の、ハワイでの日程づくりを、イースト・ウェスト・センターに委託する話し合いが最近、行われました。幸いにも、センターは快く、この新しい仕事を引き受けてくださいました。この新しい方式を通じて、イースト・ウェスト・センターは、日本の方々がアメリカの社会や考え方を真に理解する手助けをすることになるでしょう。

#### イースト・ウェスト・センターの今後の役割

アメリカの次の世紀は太平洋の世紀になる、と考えるアメリカ人たちが、あらゆる層で、増えています。私も同感です。わが国の経済福祉が、太平洋地域に依存するようになることは、明らかだと思います。アメリカが、今後とも強力で、成長し続けるためには、多くの面で、環太平洋の多様性に富んだ国や文化が重要である一方、日米パートナーシップは今後とも、アメリカの太平洋政策の基盤となり続けるでしょう。

従いまして、イースト・ウェスト・センターと、その同窓生や日本人関係者の方々が果たされる役割は、ますます重要になっていくでし

う。皆さんはそれぞれ、センターに留学中、地域的な理解の促進に貢献されたにちがひありません。しかし、皆さんの仕事は、まだ終わってはいないのです。このような会合やセミナーの開催を通じて、また、引き続き、イースト・ウェスト・センターの活動を支援したり、健全な日米関係が両国にとって、いかに大切であるかを他の人たちに説明したり、両国民のあいだに信頼の橋を築くために個人的な努力をすることによって、皆さんが貢献されることは、絶対に必要であります。

最後に、イースト・ウェスト・センターへの皆さんのこれまでの貢献に対して称賛の意を表しますとともに、皆さんにぜひお願いしたいことがあります。日本の将来のために、また、両国にとってますます重要になっている、この極めて多岐にわたる日米パートナーシップのために、

私たちは協力して、緊急に、他の人たちを教育する努力をしなければなりません。日米パートナーシップの真の性格について、また、両国がどのような成果を達成してきたかについて、説明する仕事は、皆さんのユニークな経験ゆえに、まさに皆さんにぴったりの仕事です。両国の共有する将来が、いかに大切であるかを、次の世代に伝えるのに役だつプログラムが、イースト・ウェスト・センターその他の団体によって実施されており、皆さんは、そうしたプログラムを支援することができるのです。

これは大きな仕事です。しかし、かつて、ロバート・ケネディが述べたように、「私たちでなければ、誰がそれをするのでしょうか。また、今でなければ、いつそれをするのでしょうか。」

ご清聴ありがとうございました。

## EWCA の Executive Board Meeting に出席して

馬場房子 ('63)

今度、EWCA の Executive Board Member という大役に選ばれました。これから4年間(1990~1994年)、出来る限りの努力をしたいと思っておりますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

早速、1990年10月13日と14日の両日に行われました Executive Board Meeting に出席いたしました。今回は、新旧のメンバーの連絡会議でもありました。2日間に亘り、本当に、率直に、いろいろな事を話し合いました。主要な事について、以下、述べさせていただきます。

1. すべての会議は、Didin's ルール(非公式のコンセンサス・スタイル) でやる事に決まりました。(ちなみに、Didin は、インドネシアの

Alumnus で、千本俸生氏の前に Chair であった Mr. Didin Sastrapradja です。)

2. EWC と EWCA の間には、Partnership・Relationship を維持・強化していくことに決まりました。

3. 従って、Board の役割は、EWCA のプログラムが EWC のプログラムを補ったり、拡大できるようにする事であって、EWC のプログラムと競争する事ではありません。

4. これから、EWCA のいろいろな問題につきましては、Task Force を作ってやって行く事に決まりました。当面の問題と Chair は、次の如くです。

A. Review Board Selection Procedures (Tin

Myaing Thein and Vicki Shambaugh, co-chairs)

- B. Long Range Plan (Gary Larsen, chair)
  - C. Fund Raising (Gary Larsen, chair)
  - D. Networking-Referral Service and Data Base (Gordon Ring, chair)
  - E. Networking-Mid Career Development (Jean Eng Geer, chair)
  - F. Chapter Development (Vicki Shambaugh, chair)
  - G. Student Program (Greg Trifonovitch, chair)
  - H. Southern California Conference (Gary Larsen, chair)
  - I. EWCA Budget (Fusako Baba, chair)
5. Regional Meeting について

すでに総会(1990年12月12日)のご案内と一緒にお知らせいたしましたように、1991年の1月24日から26日まで、EWCとEWCAの共催で、米国カリフォルニアのロングビーチでRegional Meetingが開催される予定です。テーマは、"The Asian-Pacific Experience in California: Trends and Prospectives for the Year 2000"です。

6. 1991年の世界大会について

1991年7月17日から20日まで、タイのバンコクで開催される予定です。出来れば、日本EWCAからは、グループで参加したいと思っておりますので、Registrationだけしておいて頂ければ

原田 泰氏セミナー開かれる

平成2年4月5日(月)夕、同友会会員で経済企画庁において市場開放問題を担当されている原田泰氏を囲むセミナーが神田・学士会館で開かれました。当日は出席者5名と小人数でしたが、

幸いです。今回の会議では、"Poster Session Presentation"が7月19日(金)の14:00から17:00まで行われます。もしご希望がありましたら、1991年3月31日までに申し込んで下さいとの事でした。これは、学会発表と同じに扱われますので、それぞれの所属機関からの経済的支援も得られ易いのではないかとこの事です。(これも詳細につきましては、事務局の方へ、お問い合わせ下さい。)

最後に、以上のような活動を行うためには、資金が必要です。御寄与を頂ければ幸いです。今回から、クレジット・カードで申し込みが出来るようになりましたので、送金の為のコストがかからなくなりました。よろしく願い申し上げます。なお、クレジット・カードを使用しないときは今まで通り、郵便局口座の

東京6-352785

亜細亜大学馬場研究室内

日本イーストウェストセンター同友会(ハ)に送っていただければ、日本EWC同友会の方で、まとめて送らせて頂きます。昨年度は、日本の67人の方から御寄付いただいたそうでございます。本年は、お一人お一人は少額でも、少しでも多くの方々から御寄付いただければ幸いです。

それでは、何か御助言やお問い合わせなどございましたら、事務局の方へお知らせ下さいませよう願ひ申し上げます。末筆ながら、皆々様の御活躍をお祈り申し上げます。

折からのホットな話題をめぐり、新鮮なお話を伺うことができました。

原田氏は、日本は官僚が管理する「家父長主義的国家」であるとされているが、これは誤りであり、実態としては官僚は利益団体と政治家の間の仲介者として理解すべきであること、この点の理解が文化摩擦の原因となっているので

はないかと述べられました。さらに、具体的な市場開放問題の例をいくつか挙げられましたが、われわれの身近なところでいかに多くの規制が行われているかということが改めて理解でき、興味深いお話でした。

柿澤弘治氏セミナー開かれる

平成2年10月8日(月)夕、同友会会員で衆議院議員としてご活躍の柿澤弘治氏をお招きしてセミナーが開かれました。中東情勢緊迫による過密スケジュールのなか、柿澤氏が本会のため特に貴重なお時間を割いて下さり実現したものです。当日は、東京在住会員を中心に一部地方からの会員も加え約20名の参加を得て、予定時間を超過して熱心な質疑応答がつづきました。

柿澤氏のスピーチは、最近の国際情勢を踏まえて、これからの日本がどのような役割を世界に対して果たせるのかという点を中心に行われました。国会で審議中の「国連平和協力法案」は、中東問題のみを視野にいれたものではなく、もっと広い意味で日本の国際的平和維持活動への貢献をめざすものでなければならないということ。特に、最近のアジア情勢の変化を考えたとき、カンボジア和平における停戦監視、朝鮮半島の対話開始といった新たな展開に日本が積極的に貢献すべきであると述べられるとともに、これまで日本の国際平和への貢献が金銭面に偏り、いわゆる「町人国家」に徹してきたことは再検討されるべきであり、「ひと」の面での貢献ということを実際に考えるべきだと主張されました。

その後、参加者の一部からは特に問題となっている自衛隊の海外派遣と憲法という点に関して柿澤氏へ賛否両論の質問が寄せられました。これに対して柿澤氏は、「集団自衛権」や「集団安全保障」というものを認めるなら、国連軍、



柿澤弘治氏のセミナー

多国籍軍は、集団自衛権や「集団安全保障」の範疇に入るであろうこと、従来の日米安保は片務的であり、相互安保を目指すべきであること、アジアの集団安保を作る方向で、憲法の解釈を広げるべきこと、更に、米ソ和解という現実を踏まえ日本も含めた多極的構造の中で地域紛争を解決する道を探るべきであると述べられました。

EWCでビジネスマン向のセミナー

East-West Centerでは、ビジネスマンを対象としたセミナーをホノルルにて開催することになりました。センターの歴史の中でもビジネスをテーマとしたセミナーは初めての事です。

このセミナーは、Asia-Pacific Executive Education Programsと題して、アジア・太平洋地域の中堅ビジネスマンを対象としており、原則として各回5日間ずつ、1991年中に5回にわたり開かれます。テーマは次の通り。

- Managing Asia-Pacific Technology (February 25-March 1, 1991)
- Joint Ventures and Strategic Alliances: Collaborative Approaches for Business Success (April 22-26, 1991)
- Multi-Cultural Workforce Management in Asia-Pacific Nations and the United States (June 10-14, 1991)
- International Study Tours: Asia-Pacific

and the United States (August 5-18, 1991)

□ Mastering Asia-Pacific Financial and Capital Markets (November 4-8, 1991)

□ Custom-Designed Programs

Business programs tailored to a company's specific needs and interests.

興味のある方は、下記にお問い合わせ下さい。

Business Programs

East-West Center

1777 East-West Road

Honolulu, Hawaii 96848, USA

### EWCでResearch Associate募集

EWCのInstitute of Culture and Communicationでは下記によりResearch Associateを募集しています。

分野：Japanese Studies

期間：3年間、更新可

資格：人文・社会科学におけるPh. D.または同等の経験があること。

日本語及び英語が堪能であること。

Ph. D.後に日本文化・社会に関する研究経験があること。

日本文化、近代アジア・太平洋文化、文化の比較研究等に関する著作があれば尚可。

給与：\$29,891-\$55,376/年間、及び生活費補助約22.5%。

応募者は履歴書、詳しい経歴書、専門関係の推薦者3名を付して下記へ郵送のこと(1991年3月4日消印まで)：

Rebecca Dixon

Personnel Office

Dept. 115, East-West Center

1777 East-West Road

Honolulu, Hawaii 96848

### 女性ジャーナリズム賞応募者募集

Friends of the East West Centerでは、1991年度のMary Morgan Hewett基金によるMMH賞の女性応募者を募集しています。新聞、出版、ラジオ、テレビ関係で活躍中の女性ジャーナリストは、事務局又は下記宛お問い合わせの上、4月10日迄に応募して下さい。

Chair, Mary Morgan Hewett Fund

Friends of the East West Center

1777 East-West Road

Honolulu, Hawaii 96848

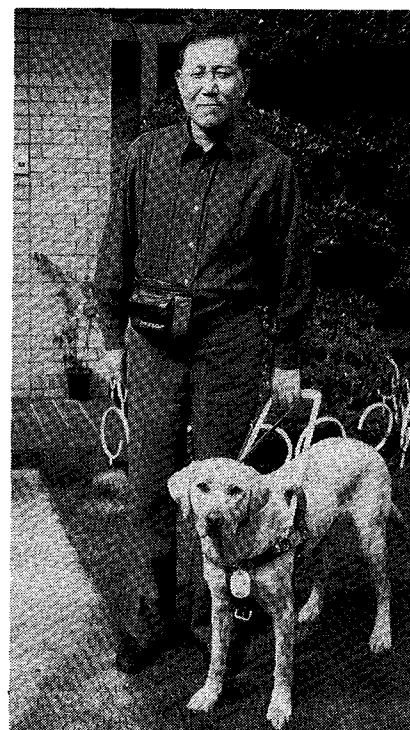
### 500頭目の盲導犬の主人は竹前教授

1964~66年度EWC granteeの竹前栄治氏は約10年前に白内障と網膜変性の合併症で視力を失いながらも東京経済大学の教授として、又、主として労働問題に関する数多くの著書、訳書を著すなど、研究者としても著名な方ですが、昨年夏に標記の日本で500頭目の盲導犬(アイメイト)「ネモフィラ」の飼い主になりました。

日本では、財団法人「アイメイト協会」(元東京盲導犬協会)の塩屋賢一理事長が苦心の訓練の結果、1967年に第1号の盲導犬を世に送り出して以来、「ネモフィラ」が500頭目のアイメイトとなります。アイメイトの飼い主になる資格をとるために、竹前氏は4週間に亘って同協会に住み込んで犬と共同生活をしながら厳しい訓練を受けました。

これまで常に傍らにあった夫人や秘書にかわって、これからは「ネモフィラ」とともに日本国内は勿論、海外での学術会議にもひとりり参加できると竹前氏はひとときわ明るい表情で語っておられました。

しかしながら世間においては盲導犬に対する



竹前栄治氏と「ネモフィラ」

誤解がまだまだ多く、仕事上の犬に声を掛けたり、なでたり、ハーネスをつかんで盲人を誘導しようとするケースがよくあるとのこと。ハーネスは運転中の車のハンドルに相当するもので、他人がそれに触れることは大変危険だということです。また、ホテル、レストラン、劇場等の利用についても非協力的なケースがあり、厚生省、環境庁などの通達の徹底を期待したいというお話でした。私達も正しい知識を持って協力したいものと思いました。(中村正枝)



ユニークな活動・活躍をしている  
会員をご紹介下さい

### 会員の本の紹介

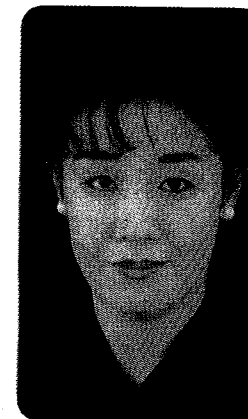


田中靖正『チェルノブイリ・シンドローム』  
(電力新報社、2,000円)

同友会会員で、学習院大学の田中靖正氏が、『チェルノブイリ・シンドローム』を電力新報社より出版されました。1986年の事故以来、ヒロシマやナガサキという言葉が核兵器のシンボルとなったように、チェルノブイリという言葉は原子力災害のシンボルとなりつつあります。本書は、事故の及ぼした強烈な衝撃に、われわれと、われわれの社会がいかに反応してきたかを社会心理学の視点から追跡した記録です。原発問題を含め広くエネルギー・環境問題に関心のある方のご一読をお薦めいたします。

### ご紹介

### 酒井洋子さん



会員の金子(酒井)洋子さんは1964年度EWCドラマ専攻のグラントーですが、帰国後もニール・サイモンの戯曲の翻訳また演出家として知られております。最近ではニール・サイモンばかりでなく、新進の女性の作家の翻訳や、演出の面でも三島由起夫の作品など意欲的な活動をされておりますので、そのいくつかをご紹介いたします。数年前にその演出で紀国屋演劇賞をとったニール・サイモンの「サンシャイン・

ボーイズ」はその後日本全国で公演されていますのでご覧になった方もおありかと思ひます。

「綾の鼓」原作：三島由起夫、演出：酒井洋子、出演：久米明、北村昌子、山口小夜子他。平成2年度（第45回）文化庁芸術祭主催公演—三島由起夫近代能楽集—全8作品上演のうちの一つ。中世の幽玄の世界を現代におきかえた、全く演出家の個性がよくうちだされた舞台と言える作品です。平成2年11月東京三百人劇場で上演。

「花いくさ」原作：向田邦子、演出：酒井洋子、出演：有馬稲子、波野久里子、小坂一也他。向田邦子の代表作「阿修羅のごとく」の初の完全舞台化作品。有馬稲子さんと組んでの舞台はお二人の兼ねてからの懸案だったということです。平成3年1月東京サンシャイン劇場で上演。

「わたしのハートはスーツケース」原作：クレア・マッキンタイア、訳・演出：酒井洋子、出演：田島令子、一柳みる、唐沢潤他。S・ベケット賞に輝くイギリスの新進女流戯曲家の第3作。平成3年2月東京博品館劇場で上演。

他に、最近の訳書に「愛の選択」M・ラインバック著、早川書房¥1,700。「絵を描く女」リンド・グレイ・セクストン著、晶文社¥3,200等があります。

以上



### 会費納入のお願い

1991年度の会費の納入をお願い申し上げます。振込用紙を同封させて頂きましたのでご利用下さい。会費は¥5,000です。

## 編集後記

ニューズレター第5号を発行してからはや1年近くが経ってしまいました。残念なことながら予算の都合上、先送りになってしまっていたのです。少々古い情報も入っていますがご了解下さい。その予算のかなりの部分を投入した結果はこのニューズレターと一緒にお手許に届いた会員名簿です。全国の会員から寄せられた情報の結果、この度はかなり正確な名簿になっていると思ひます。住所・勤務先変更をはじめ、今後とも色々な情報を事務局宛お知らせ頂きたくお願い申し上げます。

今回のニューズレターの用紙は1961年グラウンディーの永井健様が御寄付下さったものです。誠に有難く、紙面を拝借してお礼申し上げます。

湾岸戦争も泥沼化してきた様相の昨今、原油の海に沈んでいく水鳥の姿を見て、自分に一体なにが出来るのだろうかかと焦りに似た気持ちを感じるばかりです。どんなトピックでも結構です、ニューズレターにもご意見をお寄せ下さい。

(MN)



### ニューズレター 第6号

編集発行 日本イーストウエストセンター同友会  
発行責任者 馬場房子 太田幸夫 千本倅生  
〒180 東京都武蔵野市境5-24-10  
亜細亜大学馬場研究室内  
電話 0422-54-3111

タナカ印刷株式会社